
アイドルマスターゼノグラシア 死神の物語

紅夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイドルマスターゼノグラフィア 死神の物語

【Nコード】

N4829Y

【作者名】

紅夜

【あらすじ】

この物語は、「真恋姫無双 死神の名を継ぐ者」のアナザーストーリーです

天使の起こしたミスにより、ある世界に転生した主人公たち彼らが行った世界はアイドルマスターの世界なのだが…

運命編 第零話 運命の始まり（前書き）

きっかけは、天界でのある出来事だった…

運命編 第零話 運命の始まり

天界 とある部屋

ガンッ！！

天使「ああー！！もう！どうしてこうなった！」

天使は目の前のパネルに触れながら呟いていると・・・

アポロ「・・・なぜ、キサマがここにいる？」

後ろに彼の上司であるアポロがいた

天使「あ、アポロさま！これは・・・」

アポロ「なぜ、いるんだ？」

天使「・・・ちょっと、装置をいじってしまっで・・・」

天使は罰が悪そうに言ったが・・・

アポロ「・・・キサマ、自分がなにをやったか分かってるのか？」

アポロはドスを効かせた声で天使を脅すと・・・

天使「で、でもほら・・・」

カタカタカタカタ...

ピピッ!!

天使はモニターにある画面を出した

天使「世界の歪みだけで済みましたよ」

アポロ「……………」

アポロは天使の襟首を掴み壁に投げた

アポロ「お前、こんな事をしたら世界がどうなるか分かってるだろう!!」

天使「ヒイツ!?!」

アポロ「キサマは、地獄の牢獄にいた方がピッタリだな…」

アポロは右手に真紅の炎を貯めると…

アポロ「今、天使としての権限と価値を破棄し、その翼を燃やしてから地獄に落としてやる」

アポロは天使の顔を掴みながら言う…

天使「あ、アポロさま!許して下さい!」

アポロ「真紅の炎!」
プロミネンスフレイム

アポロは真紅の炎で天使を燃やし、地獄に落としたが…

アポロ「さて、コイツはどうしようか…」

アポロはモニターを見ています…

アポロ「・・・!?!」

アポロはモニターのある世界を見るとどこかに連絡した

アポロ「No.107、No.108、No.109の三人を予定の世界からこの世界に変更、パートナーは予定通りにし、専用機を用意、30分?5分でやれ!!」

こうして、天使のミスにより起きたこの事はやがて、とんでもない事件になる事は誰も知らなかった…

運命編 第零話 運命の始まり（後書き）

運命編 第一話 転生者（前書き）

この物語は大きく分けて四つに分けられます

運命編 第一話 転生者

天界 廊下

黒髪の男は赤髪の男や両目の色が違う男と歩いていた

「???」なあ翔、いつたいなにがあったんだ?」

「???」知らねえよ、だけど、かなりヤバい気がするんだ…」

すると赤髪の男は・・・

「???」ねえ、もしかしたら僕らの転生先が決まったんじゃないの?」

そう、彼らは一度死んだ者だが、転生者として生きてるが…行き先が決まっていなかった

「???」「つたく、勇や統魔も少しは緊張しろ」

この三人の男は

黒髪の男Ⅱ翔

赤髪の男Ⅱ勇

両目の色が違う男Ⅱ統魔らしい

翔「さて、行きますか」

話してるうちに、神の集まる部屋

シンオウカイギシツ
神王会議室に着いた

神王会議室

ガチャ

三人「失礼します」

ガチャ

翔達の前には様々な神がいたその中で…

アポロ「今回、三人あつまってもらったのは他でもない」

翔「いいからさっさ言えよ、アポロさんよ」

アポロ「・・・わかった」

アポロはモニターにある画面を出した

アポロ「今回、お前たちには世界の修復をやってほしい」

勇「修復？」

統魔「どこの世界に行くんだよ？」

するとアポロは重い口を開いた…

アポロ「一応、アイドルマスターの世界なのだが…」

翔「アイドルマスター・・・？」

アポロ「まあ、今から逝ってこい」

三人「・・・えっ？」

三人の足元に真っ暗な穴が開き、落ちた

三人「のわあああああああ！？」

こうして、三人はアイドルマスター？の世界に向かった

運命編 第一話 転生者（後書き）

この話の主人公の設定は真恋姫無双 死神の名を継ぐ者と同じです
ちよつとキャラの性格が違ったりしますが…

次回は原作キャラが登場？

運命編 第二話 死神と雪の少女（前書き）

タイトルから分かる通りにあの子が出ます！
作者はどのシリーズでもこの子が一番好きです！

運命編 第二話 死神と雪の少女

アイドルマスター？の世界

翔「ここって日本じゃね？」

翔たちが落ちた所はなんと日本だった！

勇「懐かしいね」

統魔「ああ……」

すると…

ヴウウウー！！

いきなりサイレンが鳴った

「IDOLが通ります、気をつけて下さい」

翔「IDOL？」

そして・・・

ギューーーーーン！！

線路からロボットのような機体が現れ、宇宙に向かった

モンデンキントジャパン本部（玉兎高校の地下）

あずさ「状況は？」

名瀬「レモンのドロップです！」

あずさ「距離は？」

榎馬「ポイント、ベータ4です！」

ジョセフ「あずさん、IDOLは行かせましたか？」

あずさ「真がネーブラで発進しました」

ここは、地球に向かってくる隕石（通称ドロップ）を大気圏外で破壊する組織

モンデンキントジャパン本部である

そしてみんなが見守るモニターの先には翔たちがみたロボットが写っていた

宇宙 地球の近く

あずさ「真、ドロップを目視出来た？」

真「ああ一応見えたけど、これメロンじゃない？」

真が目視した物は実際より小さいが…

あずさ「いいから、ちゃんと破壊してよ」

真「言われなくても…」

真は右のコントローラー後ろに引くと、ネーブラも右腕を引いた

真「破壊するよ！」

真はコントローラーを前に突きだし、ネーブラは右腕をドロップにぶつけた！

グシャン！！

ドゴオオオオオオオオン！！

モンデンキントジャパン本部 指令室

名瀬「ドロップの破壊を確認しました」

空羽「ネーブラは、アルファG4に帰還して下さい」

真「了解」

あずさたちがドロップ破壊をした一方…

東京 公園

翔（はあ…勇たちとはぐれたな…）

翔は公園のブランコに乗りながら思った

翔（しかし、この場所どこだ？）

すると翔の足元になにかが当たった

翔「・・・？」

翔はカギらしき物を拾った

それは、回りは白色で真ん中にオレンジの棒があるカギだった
そこに…

「？」「？」「すいません！」

大人しそうな茶髪の少女が現れた

翔「これ、お前の？」

「？」「？」「あつ、はい！」

翔「ふーん…そうだ、この場所知らない？」

「？」「？」「えっ？この場所ですか！？」

翔「知ってるの？」

「？」「？」「私もこれから行く所なんです」

翔「おつまジか、じゃあ一緒に行く？」

「？」「？」「はい！あつ、私は萩原雪歩です」

翔「俺は黒宮翔、よろしく雪歩」

雪歩「はい、それじゃ行きましょう」

そして、翔と雪歩は指定場所である玉兎高校にむかった

玉兎高校

???「ここが指定場所!？」

???「ここが指定場所なの伊織ちゃん？」

両髪をリボンで結んだ少女とオデコが輝いてる少女はの指定場所に
来た

伊織（律子の奴、来てないじゃないの!!）

すると…

律子「いやあごめんね二人共、遅くなったよ」

インテリ風の女（律子）が現れた

伊織「律子!このバカリボン（春香）と一緒にいたせいで迷ったじゃない!」

春香「でも、伊織ちゃんだって半泣きだったじゃん」

春香は伊織にグサツって来る事を言った

伊織「ああもう！良いから早く連れて行きなさいよ！！」

こうして、新たなアイドルマスター候補者は玉兔高校に行き、モンデンキントJ.P本部に向かった

勇と統魔「俺たち（僕たち）も着いたからな（ね）！？」「」

運命編 第二話 死神と雪の少女（後書き）

やっぱり、雪歩は可愛いよね

翔「まあ、この世界の雪歩は別らしいが…」

統魔「・・・俺の出番が少ない」

仕方ないよ、モブ・・・じゃなくてめんどくさかったから

勇「一番やつちやいけないですよ!?!」

次回もよろしくお願いいたします!!

運命編 第三話 黒宮翔の悲劇（前書き）

今回は、コメディが強い気がします

もちろん、原作キャラはドンドン出ます

一応、普通のアイドルマスターとアイドルマスターゼノグラシアの
両方を取り入れてるつもりです

運命編 第三話 黒宮翔の悲劇

モンデンキントJP本部 格納庫

あずさ「はじめまして、アイドルマスター候補者のみんな」

あずさの話を聞いてない翔は・・・

翔（俺の機体はどこだ？）

自分の機体の心配をしてた

あずさ「じゃあ、今から診断だから着替えて来てね」

勇「なんか楽しいね、ここ」

統魔「お前遊びじゃねえんだよ・・・って黒宮は？」

勇「翔ならシャワー浴びに行ったよ」

シャワールーム

ザアアア...

翔（今からテストってかなりめんどくさいな）

翔はシャワーを浴びながらそう思った

翔（これから俺たちは世界の修復って何をどうするんだ？）

翔はシャワーを止め、頭をタオルで吹きながらシャワールームを出た
すると…

雪歩「えっ！？翔さん！？」

着替え中の雪歩がいた

翔「えっ？雪歩…！？」

そして…

雪歩「キヤアアアアア！？」

雪歩が軽いパニックになりドライヤーやカゴを翔に投げた

翔「痛てて！止めろって雪歩！！俺が出るから」

しかし、雪歩はお構い無く

雪歩「見ないでええええ！！」

バゴン！

ビンタが来ると思ったら腹と顔にストレートパンチを食らった…

トレーニングルーム

雪歩「ごめんなさい翔さん…」

翔「まあ大丈夫だって、心配すんな雪歩」

翔が雪歩を慰めていると…

伊織「アンタ…その子に何したのよ!？」

伊織がオデコを光らせながら問い詰めてきた

翔「ちよつとしたハプニングで…顔近いぞオデコさん」

伊織「なにがハプニングよ!？あと、私はオデコさんじゃなくて伊織よ!…」

翔「ああゝわかったデコ織」

伊織「キイイツ!アンタわざと間違えたでしょ!」

翔「あつ、バレた?」

翔はわざと伊織をからかっている中…

勇「へえ、春香ちゃんってかなりドジなんだね」

春香「ち、違うよ！！私はつこけやすいだけだよ！！」

勇「あはは・・・」

すると...

あずさ「さて、今からテストを始めるよ」

統魔「待て、測定じゃないのか？」

あずさ「測定と言う名のテストよ」

統魔「・・・理不尽だ」

この後、翔たちはテストを受けたが...

とある港

千早（私は、絶対インベルを取り返して見せる）

千早はヌービウムに乗り込むと、キーを差し込みヌービウムを起動した

モンデンキントJP本部 指令室

榎馬「課長！ヌービウムの反応を確認しました！」

ジョセフ「分かりました、新人を行かせて下さい」

あずさ「課長！正気ですか！？」

ジョセフ「大丈夫です、伊織君はバックアップにいて貰いますから」

あずさ「・・・分かりました」

1 番格納庫

伊織「私がバックアップ!？」

あずさ「そうよ、今回アナタがバックアップするのは…」

伊織「なんで!？相手はヌービームなの!？」

あずさ「課長から言われたから仕方ないじゃない」

伊織「・・・納得いかないし」

伊織は納得がいかないもののあずさの話を聞いてた

あずさ「さて、今回行くのは…って黒宮君は？」

あずさはさっきからいない翔を探したが…

勇「えっ？翔なら・・・あれ？」

7 番格納庫

翔「ふう…もう少しマトモなパイロットスーツは無いのか？」

翔は青色のパイロットスーツを着ながら、呟いた

翔「まあ良い、久しぶりに暴れるか」

翔は青色のメモリを見ながら呟き、自分のコックピットに向かった

指令室

榎馬「・・・！？課長！7番格納庫からエネルギー反応が！？」

名瀬「カタパルトに向かってます！」

空羽「いったい誰が…！？」

すると…

翔「すいませんね課長さん」

雪歩「翔さん!？」

榎馬「なんで彼が!？」

ジョセフ「……なぜ独断で走りましたか？」

翔「……規則に反してるのは分かってるけど、今は行かなきゃいけないだろ？」

ジョセフ「……分かりました、名瀬君、報告書はよろしくお願いいたしますよ」

名瀬「えっ私ですか？」

カタパルトの途中

翔「さて、久しぶりの戦闘だ」

月下（翔の機体）の足元の入り口が開き、下にゆっくり落ちた

翔「えっと、飛翔滑走翼はクリア、輻射波動もチェック済み…」

下に落ちると月下の5メートル先の発進口が開いた

翔「よし、じゃあ行くか」

月下は足のランドスピナーをレールに乗せた
そして…

翔「月下！アクトオン！」

キキイイイイイツ！！

激しいスリップ音がすると、月下は出撃した

翔「さあて、悪党退治としますか」

月下は飛翔滑走翼を展開し、ヌービアムの所に向かった

上空

千早「来た…」

千早はインベルが来たと思ったが…

リファ「千早、全然違うのが来たじゃん」

千早「えっ！？」

そして、千早の目の前に現れたのは・・・

翔「月下、目標を捕捉撃破する」

翔の乗った月下だった・・・

運命編 第三話 黒宮翔の悲劇（後書き）

ゲツカ
月下

輻射波動は使えるがあまりカンペキでは無い

これはコードギアス 反逆のルルーシュ LOST COLORS
のオリジナル機体

月下（先行試作機）と同じ

違う所は

飛翔滑走翼が使える

右腕に紅蓮式式と同じ輻射波動がある

運命編 第四話 任務（前書き）

今回は翔のヌービウム戦があります
そして、翔と雪歩が・・・？

運命編 第四話 任務

翔「月下、目標を捕捉撃破する」

月下はヌービームに先行攻撃を仕掛けたが…

千早「邪魔よ!!」

千早はインベルじゃない事にムカつきながら月下を攻撃した

ガキン!

翔「動きを止めるか…」

月下は腰に二つあるスラッシュハーケンでヌービームに打ち込んだ

千早「くっ!?!」

ヌービームは避けようとしたが…

シュキン!

スラッシュハーケンの一つが引っ掛かった

千早「・・・この!!」

ヌービームはそれを振り切った

翔「まだまだ!」

モンデンキントJ P本部 指令室

あずさ（あのヌービームを対抗出来る！？）

誰もが勝てると思ったその時だった

ドゴオオオン！！

空羽「また7番格納庫で爆発を確認！」

榎馬「今度はなんだ！？」

あずさ「……………まさか」

ジョセフ（……………やっと目覚めましたか）

ジョセフはいつたいなにが分かっていた
その時

公園 湖の近く

春香（・・・・・・・・・・！？今は・・・・・・・・・・）

その時、春香の持っていたキーが光った
そして・・・

ドゴオオオン！！

春香の目の前にヌービウムが落ちた

翔（・・・・・・・・・・コイツ、対したこと無いな）

翔はヌービウムを見ながら、月下を地上に向かった

千早（くっ！）

千早はヌービウムを起こしながら月下の対策を考えていた
すると・・・

千早（あら、良い人質がいるじゃない）

千早は春香を捕まえ、人質にしようとした

春香（えっ？なに？）

春香はヌービウムに捕まりそうになった
その時

ズガアアアアン！！

ヌービウムは派手に吹っ飛んだ
そして・・・

春香「なにが起きたの・・・？」

春香の前に現れたのは白いロボットだった

春香「えっ・・・・・・・・・・」

千早「嘘でしょ・・・・・・・・・・！」

翔「コイツは・・・・・・・・・・」

モンデンキントJ.P本部

あずさ「インベル・・・・・・・・・・」

榎馬「マジか・・・・・・・・」

空羽「スゴイ・・・・・・・・」

名瀬「初めてみた・・・・・・・・」

翔「さて、コイツを試すか」

月下はヌービアの右腕を掴んだ

千早「このっ!!」

そして・・・

翔「弾け飛べ!」

カチッ!

月下の輻射波動が作動し、ヌービアの右腕が蒸発した

千早「キャアアア!!」

ヌービアは生きていたが…

千早「くっ・・・撤退ね…」

ヌービアは左腕で右腕を抑えながら逃げた

この有り様を見たあずさは・・・

あずさ「・・・・・・・・」

名瀬（あれは、IDOLなのですか…！？）

榎馬（右腕が弾け飛ぶなんて…）

統魔（あれが輻射波動、そして・・・）

統魔はモニターを見ながらジョセフをチラ見した

ジョセフ（なるほど、これが彼の力ですか…）

こうして、翔はヌービウムを撃退した

後日

統魔「はっ！」

ジャキン！！
バキューン！！
ドカーン！！

統魔はランスロットの兄弟機、ランスロットクラブ エアキャヴァ
ルリーに乗り、MVSでドロップを切り裂き、可変ライフルの狙撃
モードで撃ち抜いた

勇「この計算なら・・・行けるよ春香ちゃん！」

春香「たあああつ！」

勇は月下に乗りドロップの予想ルートを計算し、春香のインベルが
破壊した

モンデンキントJP本部 食堂

ピイイイツ！

春香「出来た〜！」

春香はホットドッグをレンジから取りだし、袋を開けたが…

春香「あつ！？あわあわあわ！？」

ホットドッグが春香の手から離れ…

勇「よつと」

勇がうまくキャッチした

春香「ありがとう勇くん！」

勇「やっぱり春香ちゃんってドジだよね？」

勇は春香にホットドッグを渡したが…

春香「ドジじゃないよ！」

すると・・・

統魔「ずいぶん楽しそうだな」

統魔がコーヒーを飲みながらやって来た

勇「めちゃくちゃ楽しいよ」

統魔からコーヒーを貰いながら答えた

春香「そういえば、翔さんは？」

統魔「多分、格納庫だろ？」

7 番格納庫

翔は月下の前に立っていた

翔（コイツが俺の力か・・・）

翔が月下を見ながら考えていると...

ピトッ

雪歩「なにしてるんですか？」

雪歩が翔の頬に缶コーヒーを当てながら聞いた

翔「ああ、ちよつとな・・・」

翔は苦笑いしながら缶コーヒーをもらった

雪歩「私、さっきシュミレーターで判定が出たんです」

雪歩は少し声のトーンを下げながら言った

翔「・・・不合格だったのか？」

雪歩「・・・はい・・・グスッ・・・」

雪歩は泣きながら答えた

雪歩「わ、私なんか・・・グスッ・・・アイドルマスターの資格なんてありませんよね・・・グスッ」
雪歩が泣きながら話していると・・・

翔「それは違うな」

翔は雪歩の頭を撫でながら答えた

翔「雪歩、人はそれぞれ違うんだ
俺やお前だって違うだろ？」

人には得意や不得意があるだろ？
ことわざに10人10色って言葉がある
みんな違っていいから面白いだろ？」

すると雪歩は・・・

雪歩「し、翔さん・・・私・・・」

そして・・・

雪歩「う、うわああああん!!」

翔に頭を撫でられながら雪歩は泣いた

雪歩（なんだろう…翔さんはあのと同じ温かさを感じる・・・）

雪歩は一番大事にしてるあの人の事を思い出した

雪歩（でも、もう少ししたら帰れるんだよね…あの温かい場所に・・・）

雪歩が考えていると…

ビイイイツ！
ビイイイツ！

翔「ドロップか…雪歩、悪いけど行くな」

翔は月下の所に向かった

雪歩（私は・・・どうすれば良いの・・・？）

雪歩はキリンのストラップを見ながら思った

5 番格納庫

統魔「亜美、クラブの整備は間に合いそうか？」

亜美「はい、ただヴァリスが一つしかエナジーファイラーの補充が間に合わなくて」

統魔「いや、十分だ」

真美「でも兄ちゃん、可変ライフルは使わないの？」

統魔「あれは対ドロップ用じゃないし、仮にあれで撃っても破壊は無理だろう」

統魔がクラブの最終チェックを見ながら答えていると・・・

あずさ「九条くん、あなたにはドロップの破壊は行かなくて良いです」

統魔「はっ？あずささんなにいつてるんですか？」

あずさ「あなたは、黒宮くんと一緒に待機してもらいます」

統魔（トウリアビータ対策か…）

統魔はちよつと考えると…

統魔「わかった、ただドロップは誰が行くんだ？」

あずさ「大丈夫、春香ちゃんが行くから」

春香「いよいよだね…インベル」

春香は単独の初任務に緊張していた
すると・・・

「ダイジョウブ」

春香「えっ・・・？インベル？」

「ハルカナラデキル」

モニターにインベルの思いが写し出され、春香は落ち着いた

インベル…うん
春香

そして・・・

春香「インベル！アクト・オン！」

指令室

名瀬「インベル、コースに無事乗りました」

榎馬「大丈夫そうですね」

しかし・・・

空羽「えっ！？ドロップさらに増加！？」

あずさ「なんですって！？」

榎馬「ベータ、デルタ、イプシロン、シグマが追加！？」

名瀬「いや増えたり減ったりしてる！？」

ジョセフ「どういうことですか！？」

雪歩「外部のハッキングです！」

あずさ「嘘でしょ…！」

とある島 バスルーム

リファ「これで良いよね千早」

千早「ええ、あとはインベルを奪うだけよ」

地球の近く

春香「あれって…！」

インベルの前に現れたのは、ヌービウムだった

千早「インベルは返してもらわよ!」

ヌービウムはインベルを殴ったり、蹴るなどの攻撃をし、ダメージを与えていた

モンデンキント 指令室

雪歩「春香さん!」

モニターに写ったのは、インベルがボロボロになった姿だった

運命編 第四話 任務（後書き）

月下（勇専用機）

この機体は翔の月下とは違い、先行試作型と同じである
輻射波動は戦闘向きでは無く、サポートである
まあ、対した事はない？

運命編 第五話 海（前書き）

後半は、季節外れのギャグパートです

運命編 第五話 海

モンデンキント 指令室

モニターに写ったのはインベルがボロボロになった姿だった…

雪歩「春香さん！」

空羽「パイロットの身体値低下！」

すると翔は…

翔「くそっ！」

翔は指令室を飛び出した

勇「翔！待ってよ！」

勇も指令室に飛び出して行った

地球の近く

千早（インベル、今その少女から解放してあげるから）

千早はそう思うとヌービウムはインベルを持ち上げ
そして・・・

千早「死ね」

ヌービウムはインベルを地球に投げ飛ばした

モンデンキント 指令室

榎馬「あのまま落ちたら・・・！」

名瀬「落下の衝撃を直にくらってしまっ！」

雪歩「春香さん！応答してください春香さん！」

誰もが絶望していたが…

インベルが落下する直前赤いなにかがあった

あずさ「あれって…！」

真美「テンペスタース!？」

とある森

翔（アイツは!？）

翔はギリギリに間に合ったが、テンペスタースが抑えていた
しかし、落下スピードは落ちなかった

翔（いけるか分からないけど、やるしかない!）

翔は月下の右腕の輻射波動を衝撃波に変え、地面に向かって放った

翔「くっ!」

このあと、どうにかインベルを止めたが…
春香は全治3日のケガをした

後日 月見島

真美「海だあー！」

真美たちは目の前の海にテンションが上がっていた

翔「つたく、なにが海だよ？」

勇「翔も泳ぐ気満々じゃん」

勇は翔のバッグを見て言った

翔「・・・お前もな」

翔は勇のバッグを見て同じ事を言った

勇「とりあえず、泳ごうおー！」

と言う訳で...

統魔「亜美、真美、あんまり遠くまで行くなよー！」

統魔は翔たちと同じように長めの海パンにしてるちなみに、亜美と真美は・・・

亜美「ど、どうですか統魔さん？」

真美「もしかして、真美たちに萌えたー？」

何故か知らんがスク水である

統魔「あのなあ…俺はちびっこに興味無いの分かるか？」

すると・・・

真美「だったら脱いだら良いの？」

統魔「えっ？」

亜美「と、統魔さんが望んでいるなら…」

統魔「ちょ、ちょっと待てお前ら！悪かった！俺が悪かった！だから脱ぐな！俺が命令したみたいになるから！？」

この後、統魔はみんなからロリコン疑惑が立てられた…

統魔「不幸だああああ！？」

海の近くの堤防

勇「ふう…海風が気持ち良いよ」

あずさ「そうね、海風が心地良いわ」

勇「うんうん…ってあずささん？」

勇の隣にあずさがいた

あずさ「あら、どうしたの勇くん？」

勇「・・・なんでビキニすか？」

あずさ「大人の水着はこうでしょ？」

しかもあずさが着けてる水着は黒色のビキニだ

あずさ「なんか飲み物買ってきます」

勇「いや、一緒に行きましょうよ」

勇とあずさはジュースを買いに行った・・・

海の家

翔「ふう、焼きそばでも食べるか・・・」

ジョセフ「おや、黒宮くんでは無いですか」

翔「あっジョセフさん、焼きそばありますか？」

ジョセフ「分かりました、ちょっと待ってて下さい」

翔がちょっと待っていると・・・

雪歩「課長さん、ラムネを・・・って翔さん!？」

翔「ゆき・・・ほ・・・!？」

翔は雪歩を見たが雪歩の水着は・・・

雪歩「ど、どうですか...？」

白色のビキニだった...

翔（か、可愛い過ぎるだろ...）

そして・・・

雪歩「し、翔さん鼻血が・・・」

翔「はっ？鼻血？」

ポタポタ...

翔は雪歩のビキニを見て鼻血を出していた...

雪歩「ほら、動かないで下さいよ」

すると・・・

むにゅ

翔の目の前には、雪歩の胸の谷間があった

翔（あつやべ、鼻血が・・・）

ブシャアアー！

この後、翔は大量に鼻血を吹きながら倒れた

とある島

リファ「千早、誰か来たよ」

千早「えっ・・・!?!」

すると現れたのは・・・

???「はじめまして、如月 千早さん」

千早「アナタは...!」

そこに現れたのは・・・

姫「私は赤義 姫、アナタに会いに来たわ」

運命編 第六話 ウィンターデート（前書き）

頑張って更新しました

運命編 第六話 ウィンターデート

雪兔高校 屋上

翔（・・・この世界の修復と言ったものの、どう変えろと・・・）

すると・・・

ピピピピ！！

翔（・・・誰だ？）

ガチャ

雪歩「翔さんですか？」

翔「なんかあつたのか？」

雪歩「いえ・・・その・・・」

雪歩はどこか様子がおかしかった・・・
すると・・・

雪歩「・・・今度の休みに出かけませんか？」

翔「・・・はあ？」

そして、休みの日

翔（・・・つたく、休みの日になんだよ？）

すると・・・

雪歩「お、お待たせしました・・・」

私服姿の雪歩が現れた

翔（・・・似合いすぎだろ）

翔は気づいた

翔（今はクリスマス、まさか…）

雪歩「じ、じゃあ・・・デ、デートに行きましょう…」

翔と雪歩のクリスマスデートが始まった

モンデンキントJP本部 茶室

カコーン・・・

ジョセフが抹茶を煎れていると・・・

ジョセフ「おや、お茶でも飲みに来たのですか？」

あずさ「ええ、課長も暇そうですね」

あずさが珍しくやって来た

ジョセフ「暇とは失礼な、はい」

あずさ「ありがとうございます」

あずさはジョセフから抹茶を貰い、一口飲んだ

あずさ「・・・やっぱり苦いですよ・・・」

ジョセフ「この苦さが持ち味なんですよ、そういえばマスターの皆さんは？」

あずさ「みんなクリスマスだから出かけています」

町 ショップ

春香「わあ〜！こんなにいっぱいあるんだね」

春香はショーケースに並んだクリスマスグッズを見て驚いていた

伊織「まったく、バカリボンってあんなもので喜ぶなんて子供っぽい」

伊織はそんな春香を見て呆れていた

勇「そういう伊織も、たのしんでるじゃん」

勇が楽しそうに笑っていると・・・

伊織「こ、これは律子を買ってこいって言うから」

伊織がツンツンしながら答えた

勇「はいはい」

勇と春香と伊織は十六夜寮でクリスマスパーティーを開く準備のために買い物を揃えるために来た

勇「律子さんに頼まれたものを買に行つてって言われたけど・・・」

勇の手元には律子に頼まれたリストがあつたが・・・その中には

勇「仮面？」

勇は疑問に思いつつ、春香と伊織の荷物係をした

町

雪歩「きれいですよね…」

翔「ああ」

翔は焦っていた

翔（手を繋ぐってこんなに大変か！？）

しかし雪歩は・・・

雪歩（・・・早く、あの人の場所に帰りたい）

雪歩はある人を思い出しながら、翔と手を繋ぎながら歩いていると・
・

統魔「翔、何やってんだ？」

翔「統魔！？」

亜美「雪歩さんもなにしてるんですか？」

統魔と亜美が手を繋ぎながら歩いて来た

翔「お前もなにしてたよ！？」

雪歩「・・・統魔さんってロリコンですか？」

統魔「いやいや待てよ！？、おかしいだろそれ！？」

亜美「わ、私たちは・・・その・・・」

統魔「……どう説明したら良いものか……」

すると統魔と亜美は黙ってしまった

翔「……まさか、付き合ってるの？」

翔の一言は当たりだった

翔「えっ？マジで当たり？」

すると

統魔「ああ！俺と亜美は付き合ってる！！だからなんだ！？」

翔「真顔で言ったら気持ち悪いぞロリコン」

雪歩「今のは、私でも勘弁して欲しいですロリコンさん」

この後、翔と雪歩は統魔たちと別れたが……

翔「雪歩」

雪歩「ん？なんですか？」

翔「雪、キレイだったな」

雪歩「……はい」

翔「またいつか、来ような」

雪歩「ええ！」

雪歩（翔さんは敵なのにどうしてこんな感情を抱くの？）

雪歩は悩んでた

雪歩（・・・私は裏切るしか無いのかな・・・）

運命編 第六話 ウィンターデート（後書き）

今回は日常パートでしたが、次回は運命編の最終回です？

運命編 第七話 二人の思い（前書き）

すいません、前話で運命編でのコメディが終わると書きましたがどうしてもこの話を入れなければならなかったのでごめんなさい

運命編 第七話 二人の思い

とある屋敷

千早「・・・」

姫「アナタは、インベルのデータを元にアナタだけのインベルを生み出すのよ」

千早「・・・そんなこと、出来るわけ・・・」

姫「それが出来るんだよ」

千早「えっ!？」

姫「協力する？」

千早「・・・」

リファ「千早、コイツ嘘を言ってるかもしれないよ」

リファはニヤニヤしながら嘘を言っていると・・・

千早「・・・協力させて」

リファ「うそ?マジで言ってるの!？」

千早（私だけのインベル・・・）

千早は自分だけのオリジナルインベルが出来ることに気持ちが高ぶっていた・・・

姫（この子もバカよね、自分だけのオリジナルインベルなんて危ないだけなのに）

姫はそんな事を思いながら、手のひらにある 王冠と鎌が書いてあるUSBメモリを見た

姫（さて、大地はもう着いたのかしら？）

公園

雪歩「ふんふんふーん」

雪歩は公園のハトにエサを上げながらまったりしていると・・・

????「萩原雪歩だな」

後ろから声をかけられた

雪歩「アナタが、千早さんの協力者ですか？」

雪歩は千早から協力者と会って、ある物を取ったら帰還しなさいと言われただけである

大地「俺は松田 大地、如月 千早の協力者だ」

雪歩「で、私はなにをすれば良いんですか？」

すると大地は、雪歩に黒いUSBメモリを渡した

大地「インベルのデータを入れ、モンデキントJPにサーバーにウイルスを仕掛ける」

大地は、雪歩にそう告げると去ろうとしたが・・・

大地「あつ、忘れてた」

大地は雪歩になにかを思いだし、言った

大地「ミッションが終わったらモンデキントを破壊するからな」

大地はそう言うのと去っていった・・・

雪歩（これが、私の最後のミッションだね、そしたら・・・）

しかしその時、雪歩の頭の中にはある人物が現れた・・・

雪歩（・・・翔さんに本当の事を言った方が良いのかな・・・）

翔・・・雪歩にとっては大事な人だ

アイドルマスターの試験の時も、隣で慰めてくれた・・・

月見島の時は、一緒にいた・・・

この前のデートにも付き合ってくれた・・・

雪歩にとって翔は、好きな人だ

しかし・・・

雪歩（もし、私がスパイだって知ったらどうなるのだろう・・・）

雪歩は翔にまだ自分がトゥリアビータのスパイである事を伝えていなかった

雪歩（もう・・・時間も無いんだよね・・・）

十六夜寮 キッチン

トントントン

翔（・・・俺は、雪歩が好きなのか・・・？）

翔は斬りながら、考えていた

翔（・・・仮に好きならば、俺はどうすれば良い？）

考えながら斬っていると・・・

バキン！

翔（やば！？）

まな板まで斬ってしまった

翔「律子に怒られるな・・・」

すると・・・

ガラガラ・・・

雪歩「ただいま、戻りました」

雪歩が買い物袋を持って帰ってきた

雪歩「あれ、皆さんは？」

翔「ああ、律子はデコと春香と一緒にケーキを取りに、統魔は双子とプレゼントを買いに、勇は・・・」

雪歩「勇さんになにがあつたんですか？」

翔「・・・荷物運びで、死にかけたらしい」

雪歩「・・・えっ？」

翔「まあ、しばらく寝かせれば大丈夫だろ」

翔は苦笑いをしながら料理を作っていた

町

真美「うわあすっごーい！」

真美は目の前のたくさんのぬいぐるみを見て興奮してた

統魔「そんなに喜ぶか？」

統魔は笑いながら真美を見てると・・・

亜美「あの・・・統魔さん、これ似合います？」

亜美がネコミミをしてた

統魔「あ、ああ・・・似合ってるよ」

統魔と亜美は両思いなのだが・・・

真美「むうー兄ちゃん！！真美の事も見てよ！」

真美が頬を膨らませながら見てた

統魔「はいはい・・・ほら、二人ともそろそろ帰えるぞ」

十六夜寮

全員「メリークリスマス！！」

パァン！！

翔、勇、統魔、春香、亜美、真美、雪歩、律子、伊織はクラッカーを鳴らし、喜んでいた

勇「メリークリスマス！！」

真美「メリクリ！！」

春香「真美ちゃん、略しちゃダメでしょ」

亜美「はい統魔さん、あーん」

統魔「あ、あーん」

律子「・・・ロリコン」

統魔「だ、誰がロリコンだ!？」

こうして、みんな騒いでるなか・・・

翔「ふうー」

雪歩「あれ？翔さん食べないんですか？」

翔と雪歩は十六夜寮の外にいた

翔「ん？ああ、いやちよつとな」

翔がぶつきらばつに話すと雪歩は・・・

ギョッ

翔「・・・雪歩？」

雪歩「しばらくこうさせて下さい」

雪歩は翔の後ろから抱きついた

翔（・・・なんだ、この落ち着く感覚は・・・）

翔は雪歩の胸が当たってるとは別に、心の安らぎを感じてた

雪歩（もう、翔さんとも会えなくなるから後悔が無いようにしないと・・・）

雪歩は後悔が残らないように頑張っていた

翔と雪歩（今、雪歩（翔さん）に言った方が（良いよね）良いよな）

翔と雪歩は両思いなのだが、翔はモンデキントの人間、雪歩はトウリアビータの人間
そう、お互い敵同士なのだ（翔はまだ知らないが）

翔「なあ、雪歩」

翔は雪歩を呼ぶと・・・

雪歩「なんですか翔・・・ん!？」

キスをした

雪歩「ん・・・ん」

翔は顔を真っ赤に染めながら言った

翔「俺、雪歩のこと・・・好きだ!」

雪歩「・・・ふえ!？」

翔「だから・・・その・・・雪歩のことが大好きなんだよ!!」

雪歩「え、えつと・・・その・・・わ、私も翔さんのことが大好きです!!」

この後、二人は十六夜寮の外でしばらくいた

運命編 第七話 二人の思い（後書き）

次回予告

ついに告白した、翔と雪歩

しかしそんな幸せな二人の前に二人の運命を左右する出来事が・・・
そして、モンデキントJPが最大の危機！！

果たして、どうなるのか！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4829y/>

アイドルマスターゼノグラシア 死神の物語

2011年12月25日21時53分発行